

祝
登別温泉開湯150年特別企画

湯のまちのおもてなし



年間30万人の観光客が訪れる登別温泉で、19年にわたり、観光客一人一人にあついおもてなしを続ける団体があります。彼らは、登別の美しい景色はもとより、体に無理のない温泉の入り方まで、旅行雑誌では目の届かない細やかな案内をすることにより、人と人とのつながりの深さで観光地登別温泉を支えています。

今月号では、ボランティアで登別温泉の観光宣伝活動に努めている『登別市観光ボランティアガイド会』をご紹介します。

ボランティアガイドが広げるおもてなしの心

登別市観光ボランティアガイド会の設立は、『北海道は自然一流、施設二流、サービス三流』とやゆされてきた風潮を一掃すべく、昭和60年代から観光協会や市、北海道、観光関係機関、関連団体が力を合わせ、北海道を主体とした『観光ホスピタリティ運動』（観光ホスピタリティ誰にも温かくもてなす心）が盛り上がったのがきっかけです。

この取り組みは、全道に広がり、平成元年には登別がモデル地区に指定されました。同年の8月には、登別市もいち早く関係28団体が集まり『登別市観光ホスピタリティ推進協議会』を設立し、具体的な活動を始めました。

活動の目標は、温泉を核としてさまざまな観光資源を育てることや市民一人一人が観光客を温かく迎える心を持つこと、そのための人材を育てることです。

登別ふいどこ一度はおいで地獄のさたも金いらず

平成2年5月、登別市観光ホスピタリティ推進協議会の事業として『ボランティアガイド養成講座』が開講され、修了者23人により『登別観光ボランティアガイド会』が設立されました。そして、同年7月7日から地獄谷を中心に、毎週土・日曜日の2日間と月2回の木曜日、10時から14時まで、1日2・3人の当番制で新人ガイドさんが「より登別温泉での旅を楽しみたい」と思う観光客のため、ガイドを開始しました。

『地獄のさたも金いらず』とは、JR北海道旅の情報誌に使われた登別温泉のキャッチコピーの一節です。言いえて妙なキャッチコピーですが、ボランティアガイド会の活動はまさしく『金いらず』の無料奉仕で、思い出いっぱいの旅を期待して登別に来た観光客が、「この地獄谷のいわれは？」とか「温泉の成分は？」とか「もっと登別温泉を知りたい」と